琉球大学学術リポジトリ

糞線虫感染時にみられる正常血清免疫グロブリンE値と末梢血好酸球数に関する研究

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2017-01-19 キーワード (Ja): キーワード (En): Strongyloides stercoralis, symptom, serum IgE levels, HTLV-1, female, elderly 作成者: 東新川, 実和, Higashiarakawa, Miwa メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36045

平成28年12月12日

（別紙様式第７号）

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	課程博 ＊ 第 号	氏名	東新川 実和
論文審査委員	審査日	平成 28年 12 月 12 日	
	主査教授	松崎吉朗	印
	副査教授	岸本英博	印
	副査教授	山城哲	印

（論文題目）Normal serum IgE levels and eosinophil counts exhibited during *Strongyloides stercoralis*（糞線虫感染時にみられる正常血清免疫グロブリンＥ値と末梢血好酸球数に関する研究）

（最終試験結果の要旨）

１．研究の背景と目的：

糞線虫感染をはじめとする蠕虫感染の典型例では血清免疫グロブリン（Ig）E 値と末梢血好酸球が増加することが知られているが、糞線虫と HTLV-1 の重感染の症例では血清 IgE 値が低くなることが報告されている。しかし、糞線虫感染時に血清 IgE 値レベルに影響を与える他の因子については不明であった。本研究では、この点について明らかにすることを目的として、過去の糞線虫感染患者の症状、年齢、性別などの因子と血清 IgE 値ならびに末梢血好酸球数との相関を統計的に検討した。

２．研究結果：

1991 年から 2014 年に琉球大学医学部付属病院および医療法人以和貴会西崎病院（糸満市）で診断された糞線虫症患者 717 名について後方視的研究を行った。この研究は、琉球大学臨床研究倫理審査委員会の承認を得て行われた（承認番号 557）。その結果、過去の報告に一致して、糞線虫と HTLV-1 の重感染患者は正常血清 IgE 値を示した。それに加えて、70 歳未満ならびに女性の糞線虫感染患者においても正常血清 IgE 値が認められた。また、末梢血好酸球数に関しては、糞線虫感染患者では男女ともに年齢と正の相関が認められ、また血清 IgE 値が正常値の患者にのみ、末梢血好酸球数が正常値の患者が認められた。一方、多変量解析では末梢血好酸球数と年齢、性別、症状、HTLV-1 感染との相関は認められなかった。

３．研究の意義と学術的水準：

本研究の結果から、血清 IgE 値および末梢血好酸球数が正常である糞線虫感染患者が存在すること、それに関与する因子として年齢 70 歳未満ならびに性別が女性であること、の 2 点を見出した。この所見は、血清 IgE 値と末梢血好酸球数が正常であっても糞線虫感染の可能性を否定すべきでないことを示唆しており、今後の糞線虫感染の診断に重要な基盤的知見と考えられた。

以上の結果から、本論文は学位授与に十分値するものと判断した。

備　考　１　用紙の規格はＡ４とし縦にして左横書きとすること。
　　２　要旨は 800～1200 字以内にまとめること。
　　３　＊印は記入しないこと。